

令和3年度学校自主研修事業（特色ある学校づくり）による学校視察報告

今年度は県教育委員会の事業を活用し、県外4校の学校を視察しました。この視察を通して研修したことを本校の教育活動のさらなる発展に生かして参ります。以下に研修内容を報告します。

山形県立新庄北高等学校 定時制訪問 訪問日時 令和3年8月2日（月）

当日は暑さが厳しい一日でしたが、校舎に入ると涼しい環境で迎えていただき、気持ちよく訪問をさせていただきました。

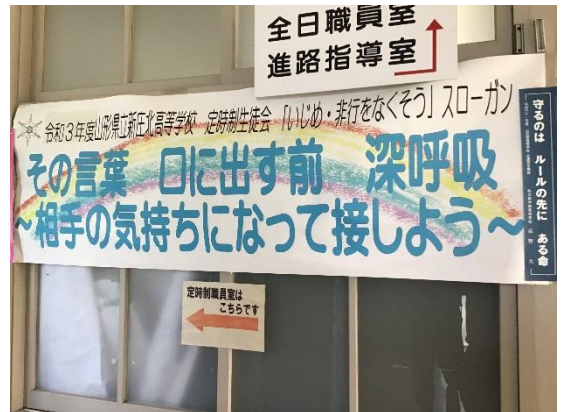
研修内容は以下のとおりです。

○総合的な探究の時間について、地域の課題を大テーマにしている。そこから各教員が小テーマを設け、グループ3～5人の生徒を担当する。グループは異学年で組むので、上級生の様子を見て学ぶ下級生が多い。地域の課題をテーマにすることでSDGsの17のゴールのいずれかに結びつく内容となっている。



○総合的な探究の時間に生徒全員が発表まで行っている。発表会では、東北芸術工科大学の教授に指導をいただいている。

○社会性を身に付けさせる特效薬は働かせること。アルバイトすることで、自ずと社会性が身に付いていく。就業率を上げるためには入学前の働き掛けが大事である。一日入学や入試の面接などで働くのが当たり前という意識を植え付けている。



○県の予算で外部講師を依頼し、ソーシャルスキルトレーニングを行っている。

○受験前に学校見学の機会を設けることで、中途退学が減っている。

○分掌の目標を設定し、9月の分掌中間反省会議で成果と課題を話し合っている。そして2月の「分掌反省会議」で年間を通じた成果と課題をあげ、次年度につながるPDCAサイクルで改善を図っている。

本校の学校づくりに向けた今後の具体的な取組として以下のことを検討しています。

○各分掌の目標を再確認し、成果と課題について中間評価を設け、後期の教育活動に生かす。

○総合的な探究の時間は大テーマを設定し、グループ活動とする。発表については外部講師を招いて講評をいただく。

○社会性を身に付けさせるため、外部講師を招いてソーシャルスキルトレーニングを行う。また、特別活動の年間計画を見直し、どの学年も系統的にトレーニングを積みさせるようにする。

○学校公開日を設け、中学生や保護者、教員を対象に定時制について理解を促す。

岩手県立花泉高等学校 訪問 訪問日時 令和3年10月4日(月)

豊かな自然に囲まれた校舎では、生徒たちが生き生きと活動する姿が見られました。授業を参観させていただくと課題に熱心に取り組み、ペア活動などにも意欲的に取り組む生徒の姿が見られました。

研修内容は以下のとおりです。

- 岩手県では、平成29年度から全ての高校で観点別学習状況評価を導入しており、年度初めにシラバスを生徒に提示する。教科ごとに話し合って重み付けを決めるが、1観点25%を基準にしているので知識・理解に偏った評価をすることはしない。
- ノート等の書いたものだけでなく、小テストやレポートなど評価する場面を増やしている。生徒にとっては学習意欲の向上、教員にとっては授業改善につながる評価になることが重要であり、考査の点数だけで評価はしない。生徒には授業を大切にするように指導しており、観点別評価をすることで、授業に積極的に参加する生徒が増え、発言も多くなった。授業改善を通して教員の意識も変化している。生徒は教え合い学習に慣れており、コロナ禍の緊急事態宣言中は、ワークシートを見せ合うなど工夫して対話的な活動を継続してきた。現在は机を向かい合わせることなく、ペア活動をさせていて、教え合う場面も増えた。
- 中間考査はしていないが、各教科で評価テストは実施している。期間を決めて、1日2教科にするなど教務部で調整を図っている。
- 総合的な探究の時間は、地域の活性化を目指した探究活動を行い、結果的に花泉高校の魅力化につなげたいと考えている。地域の核となるのが高校生という考えで取り組ませている。
- 花泉支所に依頼し、花泉出身で活躍している人やその方が働く事業所で体験活動や調べ学習を行っている。こうした活動を通して地域を活性化し、地域に残って活躍する人材を育成している。



本校の学校づくりに向けた今後の具体的な取組として以下のことを検討しています。

- 考査と考査以外の評点の割合を60:40にして、授業における学習態度やノート、課題、レポート、実験、対話、小テスト等の各種テストなど考査以外で評価する場面を増やす。
- 観点別評価は知識・技能に偏らないように重み付けを各教科で年度始めに定める。
- 授業の目標を明確に示し、授業で何ができるようになったか、自己の学習を調整できるような振り返りを行う。
- 主体的で対話的な学習になるようペア学習・グループ学習を積極的に取り入れる。
- 地域の良さや課題を自分ごととして捉え、地域の活性化、学校の魅力化を目指し、生徒が街作りの核になるように総合的な探究の時間を計画する。

岩手県立釜石高等学校 定時制訪問 訪問日時 令和3年10月6日(水)

校舎には全日制課程，定時制課程，そして特別支援学校も併設されており，生徒たちの元気のよい挨拶が印象的でした。

研修内容は以下のとおりです。

○体験活動を通して充実した学校生活の実現を図っている。農業体験を年に11回行い近所の「創作農家 こすもす」のエリアを借りて農作業を行ったり，遠野の生産組合の方々と体験活動を行ったりしている。年配の方と一緒に作業をすることは大変貴重な体験になっており，人とのコミュニケーション能力が高まっている。座学だけでは活力がなかった生徒も，外に出て仕事（作業）をすることで能力を伸ばしている。



○田植えや草取り，水やり，種芋切り，種芋植え付け，馬鈴薯収穫，加工，スイートポテト販売まで行っている。支援してくださった農家の方を招待して感謝の気持ちを伝えている。



○毎日 SHR 前に朝学習を行っており，月，火曜日は漢字検定の勉強（LHR を使って全員漢検を受検させ，漢検2級合格は国語総合の2単位分として認定）をしている。他にもビジネス文書実務検定試験や英検の受検の機会を与えている。水，木曜日は，新聞記事を読み感想を書かせ，コメントを書いてフィードバックしている。金曜日は一般常識問題を解かせている。

○昼間定時制のため，1，2時間目の授業は全日制の教員も授業を行うというメリットがある。音楽，家庭は全日制の教員が指導している。全日制の放課後部活動と重ならないように，体育は1時間目に設定し全校体育としている。部活動は体育の授業カウントとして行っている（部活動は毎年希望で更新）。

○家庭学習の習慣化を図り，基礎学力の定着を目指している。1週間に2教科ずつ課題を出し，火曜日に配付，翌月曜日に回収している。

本校の学校づくりに向けた今後の具体的な取組として以下のことを検討しています。

○体験学習を総合的な探究の時間と関連付けて年間計画に位置づける。自然体験や勤労体験をできるだけ多くを設け，SDGs の視点に立った総合的な探究の時間に繋げるとともに，キャリア教育の充実を図り，コミュニケーション能力の向上や働く意欲を高める。

○授業一単位時間を45分とし，1単位分の授業確保に努める。部活動は体育の授業でカウントするなど授業時数確保に努める。

○SHR 前の朝学習として，資格取得に向けた学習や新聞記事を読んで感想を書くなど思考力・判断力・表現力を高める教育活動を継続して行う。

○生活時間に関するアンケートを実施し，生活リズムを整わせる。

青森県立北斗高等学校・単位制による定時制課程訪問 訪問日時 令和3年11月18日(木)

新幹線で新青森に向かい、奥羽本線、青い森鉄道で筒井駅に到着。徒歩で北斗高校に向かいました。職員の皆様に温かく迎えられました。

研修内容は以下のとおりです。

- 主体性の評価については、ルーブリック評価を通して形成的評価をし、生徒に「授業がわかった」という気持ちを持たせている。また生徒がどこまで理解しているのか教員が把握できるようにしている。
- ユニバーサルデザインの視点に立った授業作りには力を入れ、マインドマップやタブレットを使い困り感の解消に努めている。
- ケース会議には担任と保護者、SSWや特別支援教育コーディネーター、医療機関など外部機関が入って情報を共有し、事例の記録を蓄積している。SSWは2人配置されており、生徒及び保護者との面談を精力的に行っている。特別に支援を要する生徒への指導・支援については研修が必要であることから、毎職員会議後に通級指導担当の教員が事例を発表し、共有している。
- 平成30年度から通級指導に取り組んでいる。本人・保護者ともに希望している場合のみ受け入れている。通級指導も単位として認めている。
- 不登校の中学生を対象に、7月に第1回のサタデースクールを行った。2回目は34名参加し、在校生20人が自ら手伝いたいという思いでボランティアを進んで行った。このサタデースクールを通して、定通の情報を知りたい本人や保護者が安心感を持って受験することができる。
- 総合的な探究の時間はキャリア教育を中心に行っており、キャリアパスポートを小・中学校・高等学校まで通して活用している。社会教育センターの事業を活用し、中間年次は大学生が20名来校し、経験談を話してもらっている。



学校づくりに向けた今後の具体的な取組案として以下のことを考えています。

- ユニバーサルデザインの視点に立って授業展開の改善を図る。
- 特別な配慮を要する生徒については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの専門的見地からの助言を取り入れ、個別の指導計画を作成する。
- 職員会議後に特別な配慮を要する生徒についての事例研修を行い、指導・支援の在り方について共通理解を図る。
- 観点別評価の「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、ルーブリック評価を用いて形成的な評価を行う。生徒の理解度を教員が確認し、授業改善に取り組む。